現代資本主義

宮川実著

宮川　実著

現代資本主義

株式会社　白桃書房

著者略歴

宮川実（みやかわ みのる）

大正九年第一高等学校卒業
大正一二年東京大学法学部卒業
昭和一四～三二年立教大学教授
現在　労働者教育協会常務理事

著書

経済学入門　経済学講義
第三貧乏物語　資本論研究
賃金　搾取　など

昭和三十四年十一月二十五日　初版印刷
昭和三十四年十二月　六　日　初版発行

現代資本主義

定価三五〇円

著者　宮川　実
発行者　大矢金一郎
印刷者　田村　要

＊　＊　＊

東京都千代田区神田神保町一丁目四二
発行所　株式会社　白桃書房
電話　(29)　五〇五四番
振替　東京　二〇一九二番

落丁・乱丁・不完全本は直接本社にてお取替えいたします。
小社発行図書総目録お申越し次第贈呈申し上げます。

序文

この書物は、現代資本主義、ことに第二次大戦後の資本主義の諸現象のなかをつらぬいている諸法則を、説明したものである。こんにちわれわれの周囲でおこっている経済的政治的な諸現象は、偶然に、ゆきあたりばったりに、おこっているのではなく、現代資本主義に内在する諸法則の作用のけっか、おこっているのである。だから身のまわりにおこる政治的経済的な諸現象の意味を知り、それらの発展方向を予見しようとおもうものは、現代資本主義の諸法則を知っていなければならぬ。一日のうちに数十年分の変化がおこるような激動の時代に住んでいるわれわれにとっては、現代資本主義の発展法則を知るということは、道に迷わないで正しく歩くために必要なことである。

この書物は、たんなる概説にすぎないから、個々の問題のくわしい論争的展開は、すべて省かれてある。個々の問題のくわしい論争的展開については、わたくしが最近に公にす

る「現代資本主義の諸問題」を参照していただきたい。

本書の発刊にあたっては、白桃書房社長大矢金一郎氏のひじょうな援助を受けた。とくにここで感謝の意を表する。

一九五九年十月二十五日

宮川実

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

目次

序説　資本主義の基本的発展法則……一

Ⅰ　産業資本主義の基本的経済構造……一

商品生産(二)――剰余価値の生産(三)――それは資本主義の基本的経済構造でもある(三)――資本主義には独自的な経済的発展法則がある(四)

Ⅱ　剰余価値の法則……五

産業資本の循環(五)――剰余価値の法則(六)――商品とはなにか(六)――使用価値と価値(七)――労働力という商品の特殊性(九)――剰余価値の生産(九)――剰余価値率と利潤率(一〇)――剰余価値率を高める諸方法(一一)――労働の生産性の向上(一一)――特別剰余価値は生産力を発展させる原動力である(一三)

Ⅲ　平均利潤率の法則……一四

資本の有機的構成(一四)――平均利潤率の法則(一五)――平均利潤率は搾取の事実をあいまいにする(一七)――資本家階級が労働者階級を搾取する(一八)

Ⅳ　利潤率低下の傾向の法則……一九

利潤率低下法則の内容(一九)――低下の傾向を阻止する諸要因(一九)――この法則の作用の結果(二〇)

V　資本蓄積の法則……二

資本蓄積は不可避的である(二一)――資本蓄積の二つの形態(二二)――集積と集中では集積が基礎である(二三)――資本の蓄積は有機的構成を高める(二三)――相対的過剰人口が形成される(二三)――相対的過剰人口は資本蓄積の条件である(二四)

第一章　生産の巨大企業への集中と独占組織の形成……二七

第二次世界大戦後の生産の巨大企業への集中(二七)――アメリカ合衆国(二七)――日本(二八)――なぜ生産は少数の巨大企業に集中するか(二九)――資本主義のもとでは資本の蓄積は不可避的である(二九)――その理由(二九)――特別利潤の追求(二九)――利潤率低下の傾向(三〇)――大資本は競争で小資本に勝つ(三一)――生産の巨大企業への集中(三三)――それは独占組織を生みだす(三三)――一九〇〇年頃自由競争の資本主義は独占資本主義に転化した(三四)――独占的組織（独占体）の独占体の種類(三五)――カルテル(三五)――日本のカルテル(三五)――カルテルの矛盾(三六)――シンジケート(三七)――トラスト(三八)――コンビネーション(三八)――ユー・エス・スチール(三九)――コンツェルン(四〇)――独占は競争を廃止しない(四〇)――独占組織内部の競争(四〇)――独占組織とアウトサイダーの競争(四一)――独占組織と独占組織と

の競争(四一)――独占組織は競争の範囲を拡げる(四二)――独占組織は競争を暴力的にする(四三)――少数独占組織による管理価格は競争をなくするか(四三)

第二章　銀行の役割と金融資本の支配 ……四五

I　銀行の役割と金融資本の成立 ……四五

銀行の集積(四五)――アメリカの例(四五)――日本の例(四六)――銀行はなぜ集積したか(四七)――銀行のおもな業務(四七)――休息態の資本が大きくなる(四七)――休息態の資本の機能態の資本への転化(四九)――銀行資本は大きくならざるをえない(四九)――銀行は証券発行業務で利益をえる(五〇)――その説明(五〇)――擬制資本(五二)――創業者利得(五三)――産業企業の集積は銀行の集積を要求する(五三)――銀行の独占組織が生まれる(五四)――金融資本の成立(五四)

II　金融資本の支配 ……五六

金融資本の支配(五六)――独占資本とはなにか(五六)――金融資本支配の方法(五七)――株式の保有による支配(五七)――株式の民主化(五七)――人民資本主義の理論の誤り(五八)――日本における株式の保有(六〇)――重役の兼任または派遣による支配(六一)――アメリカのばあい(六一)――日本のばあい(六二)――社長会(六三)――経営者革命の理論(六三)――融資による支配(六四)――コンツェルン(六五)――アメリカのコンツェルン(六五)――日本のコンツェルン(六七)――金融寡頭制(六七)――アメリカを支配する四〇〇人(六八)――日本を支配するひとびと(六九)――金融資本には盛衰がある

(七〇)――アメリカのばあい(七〇)――日本のばあい(七一)――金融資本は「支配利潤」をえている(七一)

第二章への付録

Ⅰ　アメリカの金融資本……七三

Ⅱ　日本の金融資本……八三

第三章　金融資本による労働者農民の搾取収奪……九三

Ⅰ　独占的高利得の法則（最大限利得の法則）……九三

金融資本ははげしく競争する(九三)――競争に勝つためには新技術を採用しなければならぬ(九三)――新技術の採用には巨額の資本が必要である(九四)――金融資本は独占組織と国家を利用して最大限の独占的高利得を手に入れる(九五)――社会主義との競争のためにも最大限の独占的高利得を手に入れねばならぬ(九六)――独占的高利得の法則（最大限利潤の法則）(九六)――金融資本は国内で勤労人民の搾取収奪を強化する(一〇〇)

Ⅱ　労働者の搾取収奪の強化……一〇一

(一)生産過程での搾取の強化(一〇一)――(A)労働時間の延長(一〇一)――中小企業の残業の利益は金融資本に収奪される(一〇二)――新しい機械の採用は労働時間を短

縮しない(一〇二)――(B)労働の生産性の向上(一〇三)――労働手段の変革の諸段階(一〇四)――機械化(一〇四)――総合的機械化(一〇五)――自動化(一〇五)――総合的自動化(自動機械体系)(一〇六)――原子力の利用(一〇八)――生産性の向上は実質賃金をあげるか(一〇九)――生産性の向上は支払能力を大きくするか(一一〇)――生産性の向上は労働者に不利益をもたらす(一一一)――(C)労働の強化(一一二)――賃金形態による労働強化(一一二)――能率給(一一三)――テーラー・システム(一一三)――ガント・システム(一一五)――ハルシー・システム(一一五)――ローワン・システム(一一七)――生産報奨金制度(一一八)――職務給(一一〇)――ヒューマン・リレーションズの改善(一一三)――(二)流通過程での収奪の強化(一二八)――独占価格(一二八)――独占利潤(一二八)――管理価格(一二九)――カルテル関税とダンピング(一二九)――賃金の切下げ(一三〇)――金融資本と労働者の対立ははげしくなる(一三一)――労働者階級の絶対的窮乏化はないという説(一三一)――労働者階級は相対的に窮乏化する(一三一)――労働者階級は絶対的にも窮乏化する(一三三)

Ⅲ　中小資本の収奪……一三四

膨大な数の中小企業が存在する(一三四)――中小企業の存在は経済法則の結果である(一三五)――金融資本が中小企業を収奪する方法(一三六)――独占価格(一三七)――買いたたき(一三七)――下請(一三七)――融資(一三八)――高い租税(一三九)――収奪を可能にする基礎(一三九)――膨大な失業者の存在(一三九)――労働者の組織が弱い(一四〇)――技術革新は系列化を要求する(一四一)――中小企業の低賃金は大企業の低賃金の基礎となる(一四三)

Ⅳ　農民の収奪……一四三
金融資本が農民を収奪する方法(一四三)——農民が買う工業生産物についての収奪(一四三)——生産手段(一四三)——肥料(一四三)——農薬(一四四)——農機具(一四四)——飼料(一四四)——消費手段(一四四)——農民が売る商品についての収奪(一四五)——米(一四五)——麦(一四七)——牛乳(一四八)——五〇年以後国家を媒介とする金融資本の収奪は軽減された(一四八)——しかし兼業収入と兼業農家は増加している(一四九)——なぜ兼業は増加するか(一五〇)——不動産抵当信用による収奪(一五一)——金融資本と農民は激化し労農提携の基礎はつくられる(一五二)

第四章　金融資本による植民地と従属国の人民の搾取収奪……一五三

Ⅰ　資本の輸出と帝国主義の植民地体制……一五三
後進国を搾取収奪する武器としての資本輸出(一五三)——なぜ資本は輸出されるか(一五三)——資本は主として後進国に輸出される(一五五)——資本輸出からえられる独占的高利得は大きい(一五六)——機能資本の輸出と貸付資本の輸出(一五七)——アメリカによる国家資本の輸出と国家の贈与(一五八)—日本における外国資本の輸入(一五九)——民間外資の輸入(一五九)——国家資本の輸入(一六〇)——資本の輸出は商品輸出と原料獲得のテコとなる(一六一)——帝国主義の植民地体制(一六二)——植民地は確実で

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

有利な資本輸出地である(一六四)――植民地は確実な商品市場である(一六六)――植民地は軍事基地としてもちいられる(一六七)――植民地は安い労働力の供給地でもある(一六七)――植民地の農民と労働者の状態(一六八)――ド・コロニゼーションの理論(一七〇)――植民地の階級構成(一七一)――民族とはなにか(一七三)――帝国主義時代の民族問題(一七四)――植民地人民の民族解放闘争(一七四)

II 金融資本による世界の経済的分割と領土の分割……一五五

国際カルテルの形成(一七五)――二〇世紀のはじめに世界の領土の分割が終った(一七六)

第五章 独占資本主義の停滞と腐朽の傾向……一七九

独占資本主義はいわば上部構造である(一七九)――資本主義の基本的矛盾が極度に深まる(一八〇)――独占は生産力の発達を阻止する(一八三)――停滞の傾向と発展の傾向との二つがある(一八四)――遊休設備の存在(一八五)――膨大な失業者の存在(一八五)――不生産的労働者の増大(一八六)――生産物の破壊(一八六)――金利生活者があらわれた(一八七)――金利生活国があらわれた(一八七)――軍事費の増大(一八九)――労働貴族(一八九)――古いタイプの労働貴族(一八九)――新しいタイプの労働貴族(一八九)――日和見主義(一九〇)――民主主義が亡びて政治的反動と暴力が支配する(一九二)

第六章　現代資本主義は社会主義に移行する諸条件を成熟させる……一九五

Ⅰ　資本主義を社会主義に移行させる諸条件の成熟……一九五

金融資本の支配は資本主義が社会主義に移行する諸条件を成熟させる（一九五）――社会主義を建設するための物質的基礎をつくりだす（一九六）――社会主義の物質的基礎と社会主義を建設するための物質的基礎（一九六）――二つの注意（一九七）――帝国主義の三つの矛盾が激化する（一九七）――資本と労働との矛盾（一九八）――帝国主義諸国と植民地や従属国との矛盾（一九八）――帝国主義諸国のあいだの矛盾（一九九）――帝国主義は死滅しつつある資本主義である（一九九）――資本主義は自動的には崩壊しない（二〇〇）

Ⅱ　資本主義発展不均等の法則……二〇〇

資本主義は不均等に発展する（二〇〇）――個々の企業は不均等に発展する（二〇一）――個々の部門も不均等に発展する（二〇一）――個々の国も不均等に発展する（二〇二）――帝国主義のもとでのこの法則の特殊な作用（二〇二）――世界再分割のための闘争と帝国主義戦争（二〇四）――帝国主義戦争は帝国主義者を弱める（二〇四）――資本主義は一国的なものから世界資本主義体系に発展した（二〇五）――政治的発展も不均等におこなわれる（二〇六）――政治革命の前提（二〇六）――発展不均等の法則は今日でも作用している（二〇八）

第七章　第二次大戦後の資本主義 …… 三一

I　資本主義の全般的危機の開始 …… 三一

全般的危機とはなにか(三一)――なぜ全般的危機は歴史上の一時期をなすか(三一)――全般的危機のはじまり(三三)――全般的危機の二つの段階(三三)

II　全般的危機の第一段階 …… 三四

全般的危機の基礎は二つの体制への分裂である(三四)――社会主義の成立と建設は帝国主義の諸矛盾を深めた(三五)―帝国主義の植民地体制が危機におちいった(三六)――植民地体制の危機はなぜ生じたか(三六)――全般的危機のもとでの民族解放運動(三七)――民族解放運動は帝国主義の基礎をほりくずす(三八)――市場問題の激化(三九)――慢性的な遊休設備と慢性的な大量失業(三〇)――資本と労働の矛盾は深まる(三一)

III　全般的危機の第二段階（第二次大戦後の資本主義）…… 三二

全般的危機の第二段階の特徴(三二)――(一)社会主義世界経済体制の形成(三二)―社会主義陣営の形成(三三)――社会主義世界経済体制の形成(三三)――資本主義の経済法則(三四)――社会主義の経済法則(三四)――資本主義と社会主義は異なる政治路線をすすむ(三六)――(二)帝国主義の植民地体制の崩壊(三六)――なぜ植民地体制は崩壊したか(三六)――人民民主主義国をつくったばあい(三八)――中華人民共和国(三八)――朝鮮民主主義人民共和国(三二)――政治的に自立してブルジョア

型の国家となったばあい(三三四)――中国とインドのちがい(三三五)――重工業の建設が必要である(三三六)――ソ同盟の社会主義的重工業化の資金の源泉(三三六)――帝国主義国からの外資の導入(三三八)――社会主義陣営からの外資の導入(三三九)――後進国の国家資本主義(三三九)――徹底的な土地改革が必要である(三四〇)――まだ植民地の地位にあるもの(三四一)――帝国主義の植民地体制は崩壊している(三四一)(三)国家独占資本主義の発展(三四二)――国家とはなにか(三四二)――国家は階級対立の産物である(三四二)――国家は武装した人間の特殊部隊である(三四三)――国家は経済的に支配する階級の道具である(三四四)――国家の型と国家の形態(三四五)――国家独占資本主義(三四五)――アメリカでは金融資本家が政府を直接に支配している(三四六)――アイゼンハワーの閣僚(三四七)――アメリカの大統領(三四八)――日本でも金融資本が政府を支配している(三四九)――国営事業(三五〇)――国家資金で事業をおこなうばあい(三五〇)――ブルショア的国有化をおこなうばあい(三五一)――国有化は社会主義の物質的生産的前提をつくる(三五二)――労働者が強ければ国有化を金融資本との闘争に利することができる(三五三)――国家予算によって金融資本に利益をあたえる(三五三)――金融資本の租税負担の軽減(三五四)――インフレーションは租税である(三五五)――インフレーションは大衆課税である(三五六)――歳出の大部分は金融資本のためになされる(三五七)――独占価格で金融資本の商品を買う(三五七)――戦争中にはとくに高い独占価格で買う(三五八)――財政投融資(三五九)――金融資本に有利に統制価格をきめる(三六〇)――国有財産の払下げ(三六〇)――技術教育(三六一)――賃金の抑制(三六一)――独占価格の維持(三六一)――恐慌対策(三六一)――価格差補給金(三六二)――国家独占資本主義の結果(三六二)――ブルショア国家の基本的任務(三六三)

(四)経済の軍事化と産業循環の形態の変化(二六三)――経済の軍事化は独占的高利得の源泉である(二六三)――それは第二次大戦後とくに大きな役割をえんじる(二六三)――経済の軍事化の作用(二六四)――重工業と軽工業との不均等的発展(二六四)――インフレーション(二六五)――産業循環の行程に影響をあたえる(二六六)――全般的危機の第一段階での産業循環の形態の変化(二六六)――第二段階での産業循環の形態の変化(二六七)――経済の軍事化の影響(二六八)――技術革新の影響(二六八)――国家独占資本主義(二六八)――後進国の工業化の影響(二六九)――労働組合の強化の影響(二六九)――植民地体制の崩解の影響(二七〇)――金融資本の搾取強化の影響(二七〇)――資本蓄積はいまでも産業循環の形態をとる(二七〇)

Ⅳ　社会主義世界体制と資本主義世界体制との力関係の変化……二七〇

現代の特徴は資本主義から社会主義への移行の過程だということである(二七〇)――人民民主主義の成立(二七一)――民族自主国の成立(二七一)――世界は四つの部分からなる(二七三)――社会主義陣営の発展(二七三)――ソ同盟の七カ年計画(二七四)――中国の社会主義的改造(二七六)――チェッコ(二七七)――ドイツ民主主義共和国(二七七)――社会主義と資本主義の力関係が変化した(二七七)――帝国主義戦争を阻止しうる可能性の発生(二七八)

索　引……二八六

序　説　資本主義の基本的発展法則

この書で取扱う現代資本主義（独占資本主義）は、一九世紀後半の産業資本主義が、一九〇〇年前後――一九世紀と二〇世紀の境目に――その発展法則にもとづいて移行した資本主義の最高の発展段階である。そこでこの書物の本来のテーマにはいるまえに、それをよりよく理解しうるための準備として、この序論で現代資本主義の先行段階である産業資本主義の基本的な経済構造とその発展諸法則とを簡単にみておくことにしよう。

I　産業資本主義の基本的経済構造

一九世紀後半の産業資本主義の基本的な経済構造は、つぎのとおりであった。この社会では、社会の成員が生活を維持するために必要な消費手段、たとえば衣料や靴や万年筆や食料品などだけでなく、これらの消費手段を生産するためにもちいられる機械や鉄鋼や棉花などのような生産手段もまた、つまりすべての物質的財貨は、たがいに独立な無数の産業資本家たちによって、剰余価値を手に

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.